

幼児・児童対象性教育図書出版史

—幼児の性に関する脱タブー化の視点から—

池田 政子

池田（1983）は、「性を子どもたちに伝える」意図を持った出版物が1970年代に増加していることを指摘し、その背景として、性に関する社会状況の変化とそれに対して「具体的な対応策を持たない親たち」からの要請、および『『ウーマン・リブ』の運動の影響』の二点を挙げている。一方、池田（1985、1988）では、幼児のセクシュアリティに関する実証的資料の乏しいことの原因の一つとして、「幼児の性」が社会的に非常に強いタブー性を持っていること（性に対するタブーとそれが幼児と結びつくことのタブーという二重性のために）を挙げ、しかし、近年「現実的要請がタブーを相対化しつつある」ことを、幼児の性教育に関連したいくつかの出版現象を例に指摘している。

日本性教育協会作成のリスト（1975）によると、教師や親を対象とした性教育のための専門書や指導書は、1970年の時点で既に約20冊が数えられる¹⁴⁾。これに対し、同時期までに出版された幼児・児童を対象とした性教育関係の図書は数冊にすぎない（池田、1989）。この相違は、教育を目的としたものであっても、子どもたちが直接手に取って見たり読んだりすることを前提にした図書の中に、「性」が置かれることへの「ためらい」を反映していると思われる。一つには、「子どもが読むための性に関する本」というものは、その存在自体が、タブーである性への子どもたちの関心を「おとな」が公認することであるために。さらにこのような本は、親や教師がメッセージの「伝え手」（池田、1983）として介在することを必ずしも保証しない。子どもたちはおとなの関わらないところで本を手にし、性に関するメッセージを受け取ることもできる。また、指導書であれば、送り手（著者）の

メッセージを受け手（読者）である親や教師がどう利用するかは、受け手に任されてよい。しかし、メッセージの受け手が直接子どもである場合、送り手は自分のメッセージに対する子どもの反応への責任まで考慮せざるをえなくなる。いわゆる「寝た子を起こす」ことへの恐れ、あるいはそれについて非難を受ける危惧が抑制的に働くことになる。またこのこととも関連して、メッセージの内容については当然困惑があっただろう。むしろ、おとなたちは「問題」が生じた時に「指導する」ことは持っていたとしても、子どもたちに向けてのメッセージは持たなかったと言えよう。「ためらい」を生じさせたと思われるこれらの要因は、上述のように特に幼児に対して強く働いたと考えられる。

性教育関係の図書の出版史を性のタブーの相対化（脱タブー化）という視点で見ると、親や教師用の指導書の出版は、子どもの中にも性という領域が存在し、それが「指導を必要とする対象でもある」ことを、いわば「おとなどうし、子どもには内緒で」承認するという意味を持とう。この「おとなの間での」社会的承認を第一段階とすれば、子どもを直接の対象とした図書が出版されることは第二段階であり、おとなが承認を与えたことを子どもに告知する意味を持つ。同時にこのことによって、性はおとなと子どもに共有される領域と認められることになる。この種の図書の出版について記述することは、性という領域をめぐってのおとなと子どもの関係・境界を、おとなの側がどう設定しようとしているのかを記述することでもある。

本報告は、『『性といのち』について直接に幼児・児童に伝える図書』を「幼児・児童対象性教育図

書」とし、その出版史を構成し概観すること、その中で特に幼児の性に関する脱タブー化の様相を、図書以外の資料も用いて記述・分析することを目的とする。

1 図書の収集

出版界で従来「性教育図書」という分野が確立していたわけではない。図書の収集にあたっては、編集の当初の意図が必ずしも性教育にあったのではないものも、上記の基準に該当する場合には選択された。なお近年、人体の仕組みや働きに関する図鑑や事典が多く出版されているが、人体の器官の一つとしての生殖器を解剖学的にのみ取り扱っているものは、上記基準に該当しないと見なし選択していない。収集は次の手段により、1989年12月までのものを対象とした。現在は絶版となっている場合も含めている。

1) 絵本を取り扱っている出版社37社に対する郵送による質問紙調査(1988年9月～10月実施)。

2) 「性教育関係 図書・雑誌・資料・視聴覚教材一覧」(日本性教育協会編 現代性教育研究季刊12号 巻末特別資料 1975)より選択。

3) 『性と生のライブラリー』(斗夢書房 1987)より選択。

4) 1988年1月以降のものについては、『新刊図書目録』(月刊、東京出版販売)により選択。

各図書の対象年齢については、何らかの形で図書に記載のあるもの(副題、帯への記載、後書きなど)は原則としてそれを採用し、記載のない場合は出版社へ問い合わせで特定した。

対象年齢の範囲の大きさは図書によって異なる。本報告では、対象年齢の範囲の下限が就学前児である場合を「幼児対象」とし、小学生である場合を「児童対象」として扱った。したがって、前者に分類された図書の中には小学生を対象の範囲に含むものもある。後者についても同様で、対象年齢の上限が中学生以上である場合もある。年齢の下限を分類の基準としたのは、タブー性との関係において、送り手の側でのメッセージ内容の吟味が、受け手とする対象のうち最も低い年齢に合わせてなされ则认为たことによる。なお、実際の読者が、出版社あるいは著者の意図とは異なる

年齢層であることも考えられるが、今回は出版史として、メッセージの送り手の側からの跡付けを主たる課題とするため、この点については検討されない。

以上の手続きにより、幼児対象図書30点、児童対象図書57点、計87点が収集され(シリーズものの場合も各巻を1点と計数した)、これらが検討資料とされた。

2 出版状況と特徴

(1) 出版点数の推移

付表は、資料とした全図書の出版順の一覧である。出版点数の年次推移(累積)を見ると(図1)、前述のように'70年代に増加し始め、その後'80年代前半で急増している。まず幼児対象図書が先行し、児童対象図書は'70年代後半から増加する。前者の伸びが比較的穏やかなのに対し、後者は'80年代前半に急激に増加し、'83年には前者を上回っている。'72年に初めての児童対象図書と見なせるものが出版されて以来約20年のうち'81年から'85年の5年間に出版されたもので6割強を占める。このため全体の累積点数もこの時期の伸びが著しい。現在の両者の累積状況はおおよそ1対2となっている。

(2) 出版社の状況

表1に、幼児対象図書および児童対象図書の出版点数と出版社数を示した。全体で87点の図書に41社が関わっている。平均では約2点を出版していることになるが、1社で多数出版しているところもあり、幼児対象では「文進堂」(現在は存在せず)および「アーニ出版」の5点、児童対象では

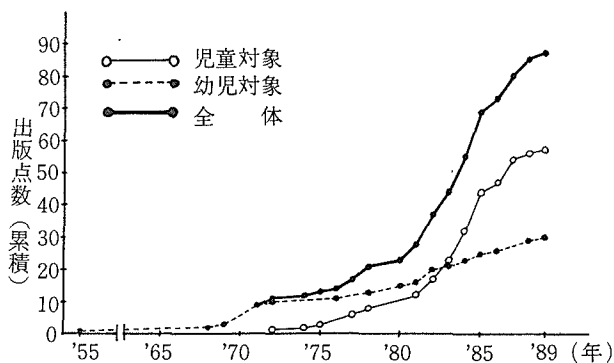


図1 幼児・児童対象性教育図書出版点数の推移

表1 幼児・児童対象性教育図書の出版点数と出版社数（1989年12月現在）

	出版社数* ¹	出版点数* ¹	一社あたり出版点数* ¹
幼児対象	18(43.9)* ²	30(34.5)* ²	1.67(1 ~ 5)* ³
児童対象	31(75.6)	57(65.5)	1.86(1 ~ 9)
全 体	41*(100.0)	87(100.0)	2.12(1 ~ 11)

* 1 改訂版は含まない。

* 2 それぞれ、全体に対する百分率

* 3 平均および範囲

* 4 幼児対象・児童対象両方を出している社があるので、両者の合計より少ない。

表2 幼児・児童対象性教育図書の新規参入出版社数の推移

期 間 (年)	幼児対象で の参入	児童対象* での参入	全 体	各期間の割合(%)
1965~69	YYY		***	7.3
1970~74	YYY SS		*****	12.2
1975~79	YY SSSSSS		*****	19.5
1980~84	YYYYYY SSSSSSSS		*****	34.1
1985~89	YYY SSSSSSSS		*****	26.8

* 幼児・児童両者を対象とする複数の図書を扱っている出版社については、新規参入の際の対象によった。各文字・記号が1社を表わす。

「岩崎書店」の9点、「ポプラ社」の7点が突出している。また両者を含む全体でも、岩崎書店が11点で最多であり、次いで、「アーニ出版」と「ポプラ社」が7点、「ばすてる書房」（旧斗夢書房）6点となっている。この4社とも「シリーズもの」を出しており、この種の図書出版に力を入れている出版社と見なせる。その中でも、後述のように、アーニ出版は設立の目的が性教育関係の教材・図書の出版にあった特異な存在である。

41社が初めて幼児・児童を対象とする性教育関係の図書を出版した時期を見ると(表2)、全体としては'80年代前半が最も多く、その後は新規参入はやや減少しているものの、'80年代に入ってから新規に参入した出版社が全体の6割を占める。児童対象図書に限ると、'70年代後半に急増して'80年代後半に至るまで新規参入は続いている。出版界において、この分野が実績を持つものと認められてきたことの表われとみることができよう。

(3) 表現形式

出版された図書をメッセージの表現形式によって分類すると(表3、表4)、幼児対象図書では絵本がほとんどであるのに対し、児童対象図書では絵本と読み物がほぼ同じ割合で、近年まんがも多くなっている。「性教育絵本の絵」の機能の一つは、「幼児の言語的思考の未熟さを補うための手段と

表3 幼児・児童対象性教育図書の年次出版状況

年	幼児対象図書	児童対象図書
1955	★	
：		
1967	(★)	
1968	☆	
1969	☆	
：		
1971	☆☆☆☆★	
1972	☆	●
：		
1974		○
1975		◎
1976	☆	
1977		○●●
1978	☆☆	○●
：		
1980	☆☆	
1981	☆	○●●●●
1982	☆☆☆☆	○○○●●●
1983	☆	○○●●●●◎
1984	☆☆	○○●●●●●●●●
1985	☆☆	○○○○○○○○●●●●●
1986	☆	○○○
1987		○○●●●◎◎◎
1988	(☆☆)☆☆☆	○◎
1989	☆	○

幼児対象図書：☆絵本 ★読み物

児童対象図書：○絵本 ●読み物 ◎まんが

__ 翻訳もの、() 改訂版

しての『さし絵』的な絵」というカテゴリーに属するものである(池田、1983)。小学生以上を対象として、なお絵本という形式が多いのは、一つには、前述のように性が子どもの他の生活領域とは異なり社会的承認の遅れた領域であるため、この領域に関する「言語的思考」を機能させる力が子どもたちに与えられず、他の領域に比べ「未熟」な状態にとどまっていることを反映していると思われる。また、絵(色彩を含む)という表現手段を採ることで、性の持つタブー性(まさに「色合い」と言ってよいもの)を緩和し、送り手のメッセージに即した性のイメージを補強する意図もあろう。

(4) 翻訳ものと国内ものの比率

翻訳ものと国内の著者によるものとの比率は、幼児対象図書で1:2、児童対象図書で1:4と後者の方が国内ものの割合がやや多い(表5)。最近10年については(表3)、『80年から'84年の間に出版された幼児対象図書のうち50.5%、児童対象

図書の33.3%が翻訳ものであるのに対し、『85年から'89年では前者が11.1%、後者が12.0%となり、国内ものの比重が高まっている。性教育の先進国のものを翻訳出版する段階を過ぎ、国内での書き手(メッセージの送り手)が育ち、増えてきたことを示すものと言えよう。

(5) 著者の性別

メッセージの送り手である著者の性別によって出版点数の比較をすると(表6)、全体的に男女共著のものが少なく、女性のみによるものと男性のみによるもの(両者とも2名以上の共著の場合を含む)とがほぼ同数であるが、その中で、幼児対象の翻訳ものでは原著者の約8割が女性であることが目立っている。さらに表7に、出版に関わった著者の実数(ひとりが2点以上の図書の著者であっても'1と数える)を性別に示したが、翻訳ものは女性が多く、国内ものは男性が多いという対照的な傾向となっている。国内ものについて著者一人当たりの著作図書数の範囲を見ると、女性の

表4 表現形式による分類

	幼児対象	児童対象
絵本	28(93.3)	26(45.6)
読み物	2(6.7)	25(43.9)
まんが	0	6(10.5)
全体	30(100.0)	57(100.0)

()内は百分率。

表5 翻訳ものと国内ものとの割合

	幼児対象	児童対象
翻訳もの	10(33.3)	12(21.1)
国内もの	20(66.7)	45(78.9)
全体	30(100.0)	57(100.0)

()内は百分率。

表6 著者の性別による出版点数

		全 体	翻訳もの	国内もの
幼児対象図書	女性のみ	14(46.6)	7(77.8)	7(35.0)
	男女共著	5(16.7)	0	5(25.0)
	男性のみ	11(36.7)	3(22.2)	8(40.0)
	合 計	30(100.0)	10(100.0)	20(100.0)
児童対象図書	女性のみ	29(50.9)	5(41.7)	24(53.3)
	男女共著	3(5.3)	2(16.7)	1(2.2)
	男性のみ	25(43.9)	5(41.7)	20(44.4)
	合 計	57(100.0)	12(100.0)	45(100.0)

* Y05～Y09については、「日本性教育研究会・藤井悦雄」編著とあるが、編集責任者藤井氏と女性の幼稚園教諭数人の共著であることを、黒川義和氏よりの私信にて確認。

表7 著者数の性別比較(人)

		全 体	翻訳もの	国内もの	一人当たり著作図書数(点)	
					平 均	範 囲
幼児対象 (25点)	女性	9(52.9)	6(75.0)	3(33.3)		1～5
	男性	8(47.1)	2(25.0)	6(66.7)		1～3
	合計	17(100.0)	8(100.0)	9(100.0)	1.67	(全15点)
児童対象 (57点)	女性	23(43.4)	8(57.1)	15(38.5)		1～7
	男性	30(56.6)	6(42.9)	24(61.5)		1～5
	合計	53(100.0)	14(100.0)	39(100.0)	1.15	(全45点)

* 著者が複数の場合は、それぞれを性別に算入した。()内は男女合計に対する百分率。

* Y05～09については、男女別の数が特定できないため算入せず。

方が上限の値が大きく、一人が多数の図書に関わっている。中でも北沢杏子が12点（幼児対象図書5、児童対象図書7、このうちシリーズもの8）と群を抜いており、次いで小形桜子・三井富美代・江崎泰子が5点（三者共著の児童対象シリーズもの）、福原保子の4点となっている。男性では武川行男の5点が最多である。北沢杏子は後述のように性教育を専門とする、現状では例外的な著者と言え、他の著者の多くは、教師・医師・児童書作家などの肩書きを持つ。子どもへの性に関する（図書という形での）メッセージの送り手は、現在までのところ、女性の方が専門化の傾向が見られるが、しかし、絶対数は少ないといえよう。また、男女をコミにした一人当たりの著作図書数の平均

は、幼児対象図書の方が多く、絶対数のみならず比率の点からも、幼児に対しての性のメッセージの送り手が少ないと言えよう。

3 出版史

出版の形態、メッセージ内容などについて、それ以前には見られない新しい事象を含んだ出版である場合を選択し、さらに幼児の性に関する脱タブー化に関わると考えられる事象を関連事項としてとり上げ、年表を構成した。以下、年表および付表にそって、年代順の記述を試みる。

(1) '55～'60年代

日本で初めての幼児・児童対象性教育図書は、

(1989年12月現在)

年	幼 児 対 象 図 書	児 童 対 象 図 書	関 連 事 項
1955	▼*1初の幼児・児童対象性教育図書出版（Y01*2『赤ちゃんはどこからくるの?』 翻訳もの（U.S.A.）中央公論社 3～12歳、性交を含む網羅的内容）		
.....	...この間出版なし.....		
1967	▼絶版となっていた上記図書、他の出版社より再版（Y01'あすなろ書房）		
1968	▽ヒトを含む動物の赤ちゃんについての絵本（Y02『かわいいあかちゃん』 童心社 3歳～、タマゴからうまれるか）		
1969	▼対象年齢が就学前後に絞られた翻訳絵本（Y03『なぜ あかちゃんはうまれるの?』（U.S.A.）タイムライフインターナショナル 性交の説明を含む）		・性教育関係専門の出版社「アーニ出版」設立
.....			
1970			・日本性教育研究会（民間団体）発足
1971	▽性教育とうたった〈親と子の性教育〉国内初の絵本（Y04『おかあさんはうちゅうせん』 講学館 4歳～、受精過程について父親の役割の説明なし、産道の場所についての説明、排泄のしつけ） ▽初めて〈幼児〉とうたい、〈性教育絵本〉と称したシリーズものの出版（Y05～Y09『幼児のための性教育絵本シリーズ』 受精過程について父親の役割の説明なし、性別役割分業の肯定）		
1972	▽低年齢からの幼児を対象とし、国内もので初めて父母の生物学的役割を記述した絵本（Y10『なぜなの ママ?』 アーニ出版 3歳～、女兒・男児・父母の外性器を明確に表現した裸体のイラスト、女兒性器を〈われめちゃん〉と呼称、くらんとせしし）	▽対象を小学生に絞った国内初の性教育読み物（S01『おとなになるって』 立風書房〈問題小説〉）	・文部大臣認可の財団法人日本性教育協会が発足し、『現代性教育研究』を創刊、この号に「家庭での性教育——乳幼児期を中心に」（平井信義）掲載。 ・東京のデパートで「子ども性教育展」開催される。左記の絵本が、マスコミに大きくとり上げられて、女兒性器の呼称、幼児期の性教育の是非などの論議が起こる。 ・日本性教育協会第1回性教育夏季セミナーにて、「幼少年期の性教育（幼稚園・小学校）」分科会が開設される。

1973			・初めて〈幼稚園〉を書名に入れた親対象の性教育図書出版（『がま先生の性教育——幼稚園の部』高橋書店）
1974		▼性交を詳しく説明、性行為の場面（絵）も含む翻訳絵本（S02『ぼく どこからきたの？』（イギリス）河出書房 小・中学生、谷川俊太郎訳）	
1975		▽生物学的性（雌雄）の意味を扱ったまんが（〈科学まんが〉）の出版（S03『男と女 はじめはじめ物語』ユニコン出版 小学生～）	・視聴覚教材として、ビデオ『幼児にとって性とは何か』発売（学習研究社、性的行動・質問の意味と対応）
1976	▽身体の理解を通して性といのちについて伝えようとした初の絵本（Y11『あなたのおへそ』童心社 5歳～、ヒトにはなぜおへそがあるか、〈生と性を知ってほしい〉）		・日本性教育協会第6回性教育夏季セミナーにて「幼児の性」が独立した分科会として開設
1977		▽小学生対象に低・中・高学年別に編集した読み物（S05『ほんとのこと教えて』成甲書房）	
1978	▼〈幼児性教育の絵本〉と表紙（副題）に明示した翻訳絵本（Y12『どうしてなの？ ママ』（デンマーク）インタナル出版 3～12歳） ▼女性の裸体（イラスト）に膣を明示、月経・避妊にもふれた翻訳絵本（Y13『あかちゃんがうまれる』（フランス）草土文化 4歳～）	▽学校教育の場で児童が直接読むことを、初めて書名に標榜した性教育テキスト（S08『楽しい性教育 小学生用テキスト』一光社 1～3年・4～5年・6年用の3分冊セット）	
1979			・日本性教育協会「性教育指導要項」を発表、〈幼稚園・保育所（4～5歳児）〉から〈高等学校〉までを含む。
1980	▽幼児教育のための絵本全集（16冊揃い）の〈家族〉と題した一冊で性といのちを扱い、対象年齢に初めて「2歳」が登場（Y14『あかちゃんのおへそ』文英堂 2、3～6歳、直販）		・同協会「性教育指導要項解説書」を発行 ・日本初の「性教育文庫」、和歌山県立図書館に開設
1981		▽初の〈性教育童話〉（あとがきより）出版、〈おんなのこのほん〉（副題）として対象を性別化（S10『ママだけのティッシュってなに』第一法規出版 小学生）	・副題に〈3歳から〉とうたった親・教師対象の性教育図書出版（『実践レポート ひらかれた性教育——3歳～9歳まで』アーニ出版）
1982	▼離婚にふれ、性交（裸体、透視表現）・誕生の瞬間（膣から顔を出した赤ちゃん）のイラストを含む翻訳絵本（Y17『あかちゃんはこうしてできる』（デンマーク）アーニ出版 3歳～） ▼犬の出産を扱った初めての写真絵本（Y19『こいぬがうまれるよ』翻訳もの（U.S.A.）福音館書店 4歳～小低 [※] 、羊膜に包まれて膣から出てきた場面、白黒写真）	▽同上〈おとこのこのほん〉（S13『ぼくのもバミたいになるのかな』第一法規出版 小学生） ▼最大手の児童書専門出版社が胎児の成長・誕生を詳しく扱った図書を出版（S17『赤ちゃんのはなし』翻訳もの（U.S.A.）福音館書店 小低～） ▽〈初潮を父母・女兒・男児と一緒に学ぶ〉ための絵本（S14『こんにちは しょうさん』アーニ出版 小3～小6 [※] 職業を持つ母親の登場）	・“人間と性”教育研究協議会（民間団体）発足
1983		▼離婚を主題とした初の絵本（S20『パパとママがりこんしたとき』翻訳もの（スウェーデン）アーニ出版 小3～小6） ▽初のまんがによる性教育図書〈まんが性教育〉（S23『からだと心の成長』実業之日本社 小5・6）	・全国紙家庭欄の幼児期を扱った連載育児記事で、「性」および「死」の問題がとり上げられる。
1984	▽人間の誕生を扱った国内もの初の写真絵本（Y22『ぼくのもうとがうまれた』アーニ出版 3歳～、裸の妊婦・膣から頭を出した新生児・新生児が生れた瞬間の場面・職業を持つ母親・保育所・国際結婚・ラマーズ法） ▼離婚を主題とした初の幼児対象の絵本	▽いのちと関連して公害も取り扱った絵本（S25『赤ちゃんパンザイ第3集 生れる』ブレーンセンター 小低～） ▽初のシリーズものの出版（S27～31『女の子と男の子の本』①～⑤ ポプラ社 小中学生、避妊法・人工妊娠中絶・ボルノ・買売春・強姦・	・新宿区教育委員会、『性教育の指導の手引き（幼稚園編）』発行 ・親子読書・地域文庫全国連絡会編集の雑誌『子どもと読書』に性教育の特集記事〈性教育をどう考えるか〉 ・日本性教育協会、「性教育指導要項」を改訂

1985	(Y23『ぼくとパパはわかれてる』 翻訳もの (フランス) 草土文化 4歳~)	同性愛)	し『改訂 性教育指導要項解説書』を発行 ・日本性教育学会発足 ・全国紙家庭欄で「子どもの性教育」をとり上げ、左記の絵本を含む性教育図書を紹介 ・『子どもと読書』で「性教育をかんがえる」特集その2
1986	▽幼児から小学校高学年まで年齢段階別に対象を設定した8冊のシリーズもの(Y24、25『ここからだ いのちの絵本シリーズ』①おかあさん、②おとうさん、岩崎書店 幼児~小低、父親について一巻をさいている)	▽左記のシリーズ中で「死」を扱う (S40『⑧生きることを愛すること』小高)	
1987	▼スウェーデンの性教育絵本、翻訳出版 (Y26『ロッタとあかちゃんスウェーデン・幼児からの性教育』 香匠庵 幼児~、排泄の仕方の男女差・子どもからおとなへのからだの変化 (裸体)・性交・胎児・誕生の瞬間・避妊具などの写真を含む、性器に触れる時の快・養子)	▼小学生自身の絵と文による絵本 (S45『赤ちゃんー赤ちゃんはどうしてうまれるの?』 翻訳もの (フランス) あかね書房 小学生、フレネ学校の生徒)	
1988	▽『なぜなの ママ?』(1972)の改訂版出版、〈性教育絵本〉と表紙に明示、同時に『なぜなの パパ?』を出版(Y10'、Y27アーニ出版 3歳~)、全国学校図書館協議会選定図書に指定される ▽〈性教育絵本〉と明示し、「性器いじり」も扱った絵本(Y28『どうしてなの パパ おしえてよ ママ』 池田書店 幼稚園児~小低) ▽『かわいいうあちゃん』(1968)の改訂版出版 (Y02' 童心社 3、4歳~)	▽〈まんが性教育〉小学低学年・中学年が出版され、シリーズとなる (S49、50『たいせつなからだ』『わたしたちのたんじょう』 実業之日本社) ▽初潮をテーマとしたまんがの出版 (S51『初潮の本 おんなのこ物語』 小学館 10~12歳)	・小学校低・中学年向きとして、性交の仕組みの説明も含んだ公開授業を素材に製作されたビデオ教材 (アーニ出版) 発売 ・東京都教育委員会、『性教育の手引き』(第2集) 幼稚園・小学校編 発行 ・保育専門誌に〈性の指導〉が特集される (別冊『幼児と保育』 小学館) ・『性を語る会』(民間団体) 発足
1989		▽新設される「生活科」の教材シリーズ (全15巻)の1冊に誕生の様子、小さい頃のことなどがとり上げられる (S57 ポプラ社 小低)	・全国学校図書館協議会の機関誌『学校図書館』で〈特集 性教育と学校図書館〉
.....			
(1990)			・日本性教育協会「性教育 新・指導要項」(全面改訂)を発表、『同 解説書』を発行、幼稚園 (保育所) については対象年齢を3歳から引き下げる

* 1 ▼は翻訳もの、▽は国内ものを示す。

* 2 () 内は、図書番号 (付表参照)、書名、翻訳もの場合は原著の国名、出版社、対象年齢、図書の扱っている内容・中心テーマ・特徴など。
< > は図書の中で使用されていることばを引用した場合。

* 3 それぞれ、「小学校低学年」、「小学校3年生から6年生」などを示す。

'55年に出版された翻訳の読み物『赤ちゃんはどこからくるの?』であると思われる。児童文学者の村岡花子の訳で中央公論社から出されたこの本は、性交・受精・胎児の成長過程・恋愛・結婚など、メッセージ内容に関してはその後20年以上他の図書に新しい内容が見られない程、性の身体的・精神的・社会的側面を過不足なく網羅している。対象年齢が3歳から12歳までと大変広い。原著者の後書き「両親へのことば」の中に“この本の

使い方”という部分があり、例えば幼児の場合、興味を持ったさし絵について簡単な説明を与えるなど、年齢に応じた利用の仕方を説明している。この本は絶版となった後、'67年に別の出版社から再版されているが、その後の幼児対象図書への社会的反応からすると、タブー性の非常に強い事項 (例えば性交についても、明確に説明されている) を含んでいたこの本が、当時再版されたことは特筆に値する。メッセージの伝え手である親が「選

折的に伝える(『性交』に関する部分はとばすといったように)」(池田、1983) ことのできる自由度の高さが、タブー性を緩和する働きをしていたように思われる。

同じ翻訳ものでも、'69年に出版された『なぜあかちゃんはうまれるの』(現在絶版)は対象が就学前後に絞られた絵本である。文と絵は同じ比重と言ってよく、例えば性交に関しても、「べにすを・・・わぎなにいれて せいしをおくりだします」という文に犬の交尾の絵を対応させている。ひとの場合も同様の文に、父母(裸体)の抱擁の絵が描かれており、伝え手の介入できる余地は前書よりもずっと少ない。監修者である村松博雄は、後書き「監修を終えて」の中で、「本書を初めて米国で刊行する時(筆者注：1969年)にも、賛否両論がうずまいたという。わが国においても、原書を数多くの識者に見せたところ、時期早尚という声が圧倒的に多かった。」と述べている。

上記の2冊のように、幼児対象性教育図書の場合、後書き等で出版の意図や意義、使い方を親や教師に向けて著者や訳者が語りかける文を含むものが多数を占める(86.7%)。一般の絵本にはさほど多くない現象である。中には、その部分が拡大して親・教師用の指導書を含んだ体裁となっているもの、各ページの下部に小さい字で親の指導のポイントが書き込まれたものもある。また、それ以外に著名人の推薦文を載せたものもある。これら伝え手に対するメッセージは、「啓発」であると同時に、おとなの「選び」を「クリア」するための出版社の方略とも考えられる。

国内ものでは、'68年に『かこさとし かがくの本② かわいいあかちゃん』が既に出版されているが、動物と人間の誕生・成長の様子を扱っており、性教育の意図はなかったという(童心社編集部に確認)。

(2) '70年代前半

<性教育>とうたった初めての国内ものの絵本は、'71年に出版された『親子の性教育① おかあさんはうちゅうせん』である。女兒・男児の身体的差異・胎児の成長・出産(産道の場所も含む)などをとり上げているが、受精過程やそれに父親が関与していることについてはふれられていない。父親は、出産を気遣い誕生を喜ぶ者としての姿が描かれている。また絵は、身体の細部が描き込

まれないシルエットで表現されている。

同じく'71年には、『幼児のための性教育絵本シリーズ』5巻が出版されている(現在は絶版)。これは、前年発足した民間団体である「日本性教育研究会」(現、日本性教育学会)が、幼児から高校生まで年齢に応じた性教育図書を著作・刊行する企画の一つとして出版されたものである。性教育に関して、このように組織的に一連の出版がなされたことの意義は大きい、特にこのシリーズは<幼児>をうたったこと、<性教育絵本>と称したこと、'シリーズもの'であること、すべて初めてであり、出版形態についてその後の幼児対象図書の原型としての要素を備えている点で、画期的なものと言ってよい。ただし、やはり受精に関する父親の役割にふれていない点、また現在の視点から見ると固定的性別役割を肯定し強調し過ぎている点などが不満である。当時同研究会としての企画に関わった黒川義和氏(現、日本性教育学会理事)によれば、後者の点について研究会の中でも出版後批判が出たという。また、「性教育は0歳から」という合意が研究会にあってこのシリーズが企画されたが、中・高校生やその親・教師を対象とした『おとなへの扉を開く』(文進堂、1971)は「よく売れた」のに対し、幼児対象のこのシリーズは、黒川氏の言によれば「当時は、幼児の性教育という認識はなく、早過ぎた」と言わざるをえない結果であったという。^{*1}

この2種類の国内ものは、メッセージ内容に関して、'60年代後半までに先行して出版された翻訳ものの2冊との格差が大きく、この格差はそれ以後も続いている。前述のように幼児対象図書の方が翻訳ものが多いが、国内のメッセージの送り手が少ないことに加え、「外国のものである」ということによってタブー性が許容された面もあると思われる。'72年に出版された『なぜなの ママ?』をめぐる一連の社会的事象はこのことを裏付ける。この本は、'69年に性教育専門の出版社として設立され、既に『こんにちわ! 13歳』(スライド教材)で実績を持っていた^{*2}アーニ出版から、『こんにちわ! 性教育 —おかあさんのための性教育入門—』(幼児から高校生までの親を対象)とともに出版された。対象が3歳からと低年齢であること、<らんとせいし>ということばも用いて父母の生物学的役割を記述していること、イラスト

で外性器を明確に表現した女兒・男児・父母の裸体など、国内ものとしては初めての要素が多く、前年に出された上記2種の国内ものより踏み込んだメッセージ内容を持つ。

学者、評論家を含む民間団体「性教育を考える会」（当時の代表は奈良林祥氏^{*3}）が主催して7月に東京のデパートで開いた「パパとママのための子ども性教育展」に、25か国の性教育の本・教材とともに、この本も展示・発売される予定であった。初日に合わせて毎日新聞が「幼児向け一つに『性の絵本』という見出しで大きくとり上げた（7/25）後^{*4}、1か月の間に少くとも地方紙も含め延べ11の関連記事が見られ、週刊誌も延べ7誌がとり上げている^{*5}。幼児期の性教育の是非について、また女兒の性器の呼称として造語されたくわれめちゃん>という用語が、論議を呼んだ。さきの毎日新聞の記事では、「登場人物はすべて丸裸。パパとママの行為もさりげなく描いているものの^{*6}、かなり大胆な表現が目立つ」とし、企画者の一人阿部進氏の「赤ちゃんが吹き飛ばされて出てくるなんて、非科学的なところが多い」という批判を紹介して、主催者の側でも評価が分かれたと記している。また、「最近、性教育へ本格的な取り組みを見せている文部省、日教組はともに渋い顔」とし、文部省幼稚園課長の「性は聖なるもの。幼児向きというのはどうも」という談を載せている。数日後の内外タイムス（7/29）は、「はて、プラスかマイナスか—飛び出した幼児性教育 ‘リアル’な絵本で一騒動」という見出しで、「かなり大胆な描写であるが、幼児にも分かるようにやさしく説いている。ことに『おほしさまのきれいなよる・・・』というあたりは、幼児の夢をこわさないという意味でも、作者の行き届いた配慮がうかがえる」とした後で、結局この本が「非科学的である」という理由で展示を主催者に断られたことを紹介し、さらに性教育の権威として「日本性教育協会」（後述）と主催者である「性教育を考える会」を挙げ、ある出版関係者の「母親の立場から見た、性教育のスライドを作っている分にはまだ可愛いが、出版社の保守性という制約を受けている権威側からすれば、自分の金で思い切ったことをする北沢さんの絵本には脅威を感じるんじゃないですか」ということばを載せている。

毎日新聞はその後この問題についての特集を組

んでいる（「読者の広場—幼児の性教育について」8/2）。「神聖な性を商業主義に利用する売らんかな主義。性は本能、知らず知らずのうちに体得してゆくのが最も自然。こんな絵本を見せたら、かえって幼児の心を暗くし、性に対する誤った好奇心や嫌悪感を持つ。」（50歳・主婦）、「教え過ぎは害になる。こうまでして幼児のうちから性教育をするつもりはない。」（28歳・主婦）という立場が主流と読み取れる。その他には「最も大切なことは、子どもの側に立った自然な答。押しつけの教材でなく、個人差にあったいくつかの答え方を教える教材がほしい。」（35歳・会社員・父親）と、おとな向けの指導書を望む声が載せられている。

北沢（1973）によれば、マスコミでとり上げられた後、「ジャリ向きのエロ本を作って、日本中のジャリを痴漢に仕立てあげるつもりか」などといういやがらせの電話や手紙が来たり、投石されたり^{*7}という騒ぎになった。アーニ出版はその後10年間、幼児・児童を対象とした性教育図書を出版していない。

この'72年は、この事件以外にも性教育に関して特記すべき事柄が多かった年である。一つは、小学生を対象とした国内もの初の性教育図書『おとなになるって』が出版されたことである（現在は絶版）。<問題小説>と書名に冠したこの本は、学習雑誌『小学六年生』（小学館）に連載されたものを単行本化したものである。児童文学の作家である著者井上明子の「あとがき」によれば、編集者から「性についての疑問や悩みが、読者からの投書にたくさんある。子どもの立場にたっていっしょに考え、答えてやれるような小説を」と求められたのが著作の動機であり、連載中は、編集部にも著者にも読者からの手紙が多数寄せられたという。前述の毎日新聞の特集に見られるような親たちの認識と、子どもたちの現実との落差を象徴するエピソードである。

もう一つのトピックは、2月に日本性教育協会が文部大臣認可の財団法人として発足したことである。性教育がいわば‘お墨付き’のものとして、学校教育の中での‘市民権’を得た意味があらう。同時に発刊された定期刊行雑誌『現代性教育研究』の創刊号には、平井信義の「家庭での性教育—乳幼児期を中心に」が掲載されている。また、同協会が8月に開いた夏季セミナーの分科会にも「幼少

年期の性教育（幼稚園・小学校）」が設けられている¹³⁾。このような事象は、幼児も性教育の対象に含まれることの社会的宣言あるいは承認であり、少なくとも性教育に関心を持つある層に対して、幼児と性の関係にまつわるタブー性を緩和する働きをしたと考えられる。

'73年には、初めて〈幼稚園〉と書名に明示した親用の指導書が出版されている（『がま先生の性教育—幼稚園の部』）。また'74年には、詩人の谷川俊太郎の訳で、性交の詳しい説明を含む翻訳絵本『ぼく どこからきたの？』が、小・中学生対象の図書として出版された。

(3) '70年代後半

幼児対象図書は'71、'72年と続けて3種が出版されたが、前記の事件が影響してか、その後の動きは鈍い。

'76年になって、既に『かわいいあかちゃん』を出しているかこさとしが、同じ童心社から『かこさとし からだの本 あなたのあへそ』を出版している。3歳以上を対象とした前書に対し5歳以上を対象とする本書では、身体への子どもの関心を通して性やいのちを伝えようとしており、「生と性を知ってほしい」という意図のあったことが後書きに明言されている。前書にはなかった胎児の成長の様子を含むが、やはり受精過程にはふれていない。

'78年に翻訳ものが2点出版された。『どうしてなの？ ママ』と『あかちゃんがうまれる』である。前者は〈幼児性教育の絵本〉と表紙にうたっている点、後者は月経・避妊にふれ、女性の裸体のイラストに膣が写実的に描き込まれている点が新しい。

幼児に関連した動きでは、'75年に心理学者岡宏子の監修で親・教師用の視聴覚教材『幼児にとって性とは何か』（ビデオソフト、学習研究社）が発売されている。幼児の性的行動や性に関する質問、それへの対応を紹介し、「幼児の性の意識はもともとおおらかで、かげりがない」と結んでいる。また、翌'76年の日本性教育協会第6回夏季セミナーでは、幼児期が初めて独立した分科会（「幼児の性」）として設けられている¹⁵⁾。

幼児対象図書の停滞に比べ、先行を譲っている児童対象図書は着実に出版点数を重ねており、この時期に新規に加わった出版社も多い（表2参

照）。'75年に、初めてまんがという表現方法を取り、生物学的性（雌雄）の意味を扱った『科学まんが1 男と女 はじめはじめ物語』が出版された。また、'77年の『ほんとのこと教えて』、'78年の『たのしい性教育・小学生用テキスト』はともに、小学生という対象年齢の範囲を細分して、メッセージ内容をそれぞれの段階に対応させた点が特徴である。特に後者は、〈テキスト〉とうたい、学校教育の場で児童が直接読むことを書名に掲げた初めてのものである。

(4) '80年代前半

'79年に日本性教育協会は「性教育指導要項」を発表し、翌'80年に文部省学校保健課教科調査官の序文を載せた『性教育指導要項解説書』を発行した。「あとがき」には、「性教育の必要性が年々高まっているのに、性教育の指針が全国的な視野と校種の一貫性という立場から体系化されていない、という要請にこたえて」と、要項作成の意図が述べられている。〈幼稚園・保育所（4～5歳児）〉から〈高等学校〉までを対象に、「目標・内容・指導計画作成上の留意点」などが盛られ、校種別に年間配当例も付けられたものである¹⁶⁾。出版との関係では、メッセージ内容と年齢の対応についての具体的な目安が、文部省と関係する団体によって提供されたことは、著作・編集の方針が立てやすく、またタブー性への配慮の負担も従来より軽減されるという大きな意味があったと思われる。

またこの年、日本初の「性教育文庫」が和歌山県立図書館に開設された。まだこの段階では、蔵書の大半が洋書と翻訳ものであり、その理由を担当者は「日本の性教育は遅れていて、昔の純潔教育のしつばをひきずったまま」「外国に比べ人材も少ないためか、文章的に問題があるものも少なくない」と述べている（週刊朝日 7/18）²⁰⁾。しかしその後、幼児対象・児童対象図書ともに新規参入の出版社が増え（表2参照）、この時期は、非常に動きの活発な時期となっている。

幼児対象では、'80年に、幼児教育のための絵本全集の一巻として、初めて2歳からを対象とする図書が登場した（『よいこの幼児全集16（家族）あかちゃんのおへそ』）。この全集は幼稚園教育要領の六領域に「性」の領域を加えた構成をとっており、幼児教育の中に性を位置付ける視点を表明した意味を持つ。

’81年に、アーニ出版は北沢杏子の各地での公開授業の実践を基に、＜3歳から＞とうたった親・教師用の図書『実践レポート ひらかれた性教育—3歳から9歳まで』を出版し、翌’82年には前述の事件から10年の間を置いて、翻訳ものの絵本を出した。離婚にふれ、裸体の透視図法で描いた性交の様子、赤ちゃんが膣から顔を出した瞬間など、前書『なぜなの ママ？』に比べ、対象年齢は3歳からと同じであるが、タブー性の一層強いメッセージを含んでいる。さらに’84年には、3歳からを対象に、裸の妊婦、膣から頭をのぞかせた新生児、新生児がへその緒をつけて生まれ出た瞬間の場面などをすべて写真で構成した絵本『ぼくのいもうとがうまれた』を出版している。写真絵本としては、’82年に福音館書店が犬の出産の様子を扱った翻訳絵本『かがくのほん こいぬがうまれるよ』を出しており、羊膜につつまれた胎児が膣から出てくる場面（白黒写真）が載っているが、人間の誕生を扱って写真を使ったものは初めてである。池田（1983）は、性教育絵本について、性というテーマ自体が写真ではなく絵や図を要求するとし、その一つとして「男女の身体的差異や性交のように、技術的に可能であっても抵抗の強い場合」を挙げたが、『ぼくのいもうとがうまれた』はこのタブーを打ち破っている。この本はまた、職業を持つ母親・保育所・国際結婚・ラマーズ法での出産など、性やいのちに関わる社会的事象を伝えようとしている点が特徴である。

’83年には、全国紙家庭欄に小児科医毛利子来の執筆で連載された育児記事の1回として「性」がとり上げられた（朝日新聞 6/28）⁷⁾。家庭での育児に関わるさまざまな事柄に性も含まれていること、すなわち幼児にも性という内的領域があることを、マスメディアが伝えたことの意義は大きい。また、’84年には、新宿区の教育委員会が『性教育の指導の手引き（幼稚園編）』を発行し、幼稚園での年間カリキュラムの中に性教育を組み込むという立場を、行政として表明している。

児童対象図書は、出版形態もメッセージ内容も豊富であり、この期間は毎年出版点数をふやしている。’81年、’82年に＜性教育童話＞とうたい、メッセージの受け手を性別化した2冊の読み物が出ている（『ママだけのティッシュってなあに—おんなのこのほん』、『ぼくのもパパみたいになるのかな

—おとこのこのほん』）。同じく’82年には＜初潮を父母・女兒・男児いっしょに学ぶ＞ための絵本がアーニ出版より出され、この本で初めて職業を持つ母親が登場している。同社はさらに’83年に、離婚をテーマとした初めての絵本（翻訳もの）を出版した。同年には、初のまんがによる性教育図書『まんが性教育 からだと心の成長』も出版されている。

’84年には、ポプラ社より『女の子と男の子の本』全5巻が出版された。小・中学生対象の初のシリーズものであり、避妊法・人工妊娠中絶・ポルノ・買売春・強姦・同性愛など非常にタブー性が強く、社会的問題も含んだメッセージ内容を持つ点で、特筆に値すると思われる。この年、親子読書・地域文庫全国連絡会編集の雑誌『子どもと読書』（岩崎書店）が性教育の特集を組み、日本子どもの本研究会の沼知方子が思春期以前の「子どもに語る性の本」として、『おかあさんはうちゅうせん』『あかちゃんがうまれる』『赤ちゃんはどこからくるの？』を挙げている。また北沢杏子の一文も巻頭に載せられている¹⁰⁾。児童書の中で、性教育関係の図書が一定の位置を占め、一つの分野を形成し始めたことを裏付けることと言えよう。

この期間には、「人間と性」教育研究協議会」および「日本性教育学会」（前、日本性教育研究会）の2団体が発足しており、性教育関係者の組織化も進行している。

(5) ’80年代後半

’85年には、幼児対象・児童対象あわせて3つのシリーズものが出ており、出版点数最多の年となっている。’87年にも『まんが性教育』がシリーズ化されており、’84年の『女の子と男の子の本』に始まるシリーズ化現象は、性教育が出版業界でかなり安定した分野になってきたことを示すものと言えよう。

’85年に北沢杏子が幼児から小学校高学年まで年齢段階別に対象を設定した8巻の『こころ からだ いのちの絵本シリーズ』を岩崎書店から出している。父親について一巻をさいていること、死の問題を扱っていることが特徴である。同年、全国紙家庭欄で子どもの性教育がとり上げられ、同シリーズの『①おかあさん』『②おとうさん』、他に『ママだけのティッシュってなあに』『ぼくのもパパみたいになるのかな』『ぼくのいもうとがう

まれた』などが紹介されている。「興味本位の性が周囲にはんらんしているとき、子どもたちに性をどう教えていくかは、父母にも教師にも切実な課題になっている」とし、性教育の専門家として北沢杏子と“人間と性”教育研究協議会の代表幹事山本直英の談話を載せている(朝日新聞 2/8)¹⁹⁾。前述の'72年当時に比べかなりの変化を感じさせる論調である。また『子どもと読書』は、再び性教育の特集を組んでいる¹⁴⁾。

'86年にはスウェーデンの性教育絵本『ロッタとあかちゃん—スウェーデン・幼児からの性教育』が翻訳出版された。排泄の仕方の男女差・子どもからおとなへのからだの変化・性交・誕生の瞬間・避妊具などが写真で説明されたページもある。訳者である教育学者の二文字理明は「訳者のことば」の中で、「日本の学校教育に今なお根強く行き渡っているのは一中略—性知識を年齢にあわせて調整して、統制するタイプの性教育であるように思われる」「早くから事実をありのまま教え、あるいはやさしく表現してありながら、発展性のある、水準の高いものをマニュアルとして与えておくことは適切なことだと思われる」と述べ、本書を「日本では幼児に絵本として親がよんできかせるほか、小学生の副読本としても十分耐える内容だ」としている。スウェーデンでの原著の出版からは10年たっているが、このような絵本が「刊行に踏みきって」(訳者のことば)ではあっても、ともかく出版される程度に、幼児の性についての脱タブー化も進行していると見なせよう。

'87年に、アーニ出版は小学校低・中学年向きとして、性交の仕組みの説明を含んだビデオ教材『あかちゃんのはじまりは?』を発売し、また北沢が代表となって『性を語る会』を発足させた。これで全国的な組織を持つ性教育関係の団体は四つとなった。この年、幼稚園教諭・保育者を対象とする保育専門雑誌に初めて<性の指導>が特集として登場した(『幼児と保育』5月号)¹⁸⁾。

'88年は改訂版の年である。『かわいいあかちゃん』は20年を経て改訂された。アーニ出版は『なぜなの ママ?』の改訂版(メッセージ内容はほとんど変更なし)を<性教育絵本>と表紙に明示して出し、同時に『なぜなの パパ?』を出版した。この2冊は全国学校図書館協議会選定図書に指定される。初版から16年たち、当時の騒ぎとの

この相違は、幼児の性に関する脱タブー化の象徴とも言える。同年、やはり<性教育絵本>とうたった『どうしてなの パパ おしえてよ ママ』が出版され、<性教育絵本>という用語が定着する兆が見える。

'89年には、全国学校図書館協議会の機関誌『学校図書館』で「性教育と学校図書館」という特集を組んでいる。小学校教諭であり児童対象図書『ぼくってだれ』の著者でもある依田逸夫は、小学生を対象とした性教育の本の現状について、「広く人間としての生きる権利や、生命の尊重の立場から描かれている」「からだの生理とともにこころのメカニズムについても多くのページが費やされるようになってきた」「発達段階に応じたきめの細かい性教育の本ができてつある」、しかし「現場の要求の割には出版点数が少ない」と述べている。また、子どもの立場から気軽に読めるような、さまざまな角度から性を扱った図書を望む声教育現場から寄せられている¹²⁾。前述のように、子どもを直接の対象とした性教育の図書の出版が、子どもの性をめぐって、おとなの側の承認を子どもに告知するという第二段階であるとすれば、公教育の場にある図書館に子どもが自由に手に取れる形で図書が置かれることは、第三段階と言えらる。おとなの承認の公的性格が強まることと同時に、公的な伝え手としての機能を持つ学校図書館の関与は、子どもがこのような図書に触れる機会を保障する一方で、子どもたちの受け取るメッセージをおとなが積極的に調整・統制する意味をも含んでいる。

4 結 語

幼児・児童対象性教育図書の出版史を、仮に次のように区分しておきたい。

第1期('67年~'72年)

翻訳ものの幼児対象図書が先行し、後発の国内ものは社会的承認を得られない。

第2期('73年~'79年)

幼児対象図書が停滞し、児童対象図書が増加し始める。

第3期('80年~'85年)

「性教育指導要項」が発表され、児童対象図書が急増する。幼児対象図書も復活する。

出版点数最多の時期。

第4期（'86年～'89年）

幼児対象図書が社会的承認を得る。性教育図書という分野が形成され始める。

'90年9月、日本性教育協会は全面改定した「性教育 新・指導要項」を公表、『解説書』を発行した。＜幼稚園（保育所）＞については、'80年の初版で4～5歳となっていた対象年齢が3歳から引き下げられて、幼児の性教育がさらに低年齢からのものという考えが示されている¹⁷⁾。性教育図書をめぐるいくつかの事象は、幼児の性に関するタブー性が確実に緩和されてきていることを示している。『なぜなの ママ？』に対する社会的反応の変化は、その最も象徴的な表れと言えよう。

（1990年11月20日受理）

＜引用文献＞

- 1) 池田政子 1983 性教育絵本の分析 (1)研究の展望 山梨県立女子短期大学紀要 第16号 39-44
- 2) 池田政子 1985 幼児の性・生・死に関する質問 (1)父母に対して 山梨県立女子短期大学紀要 第18号 23-36
- 3) 池田政子 1988 幼児の性的行動 (1)保母の眼を通して 山梨県立女子短期大学紀要 第21号 45-55
- 4) 池田政子 1989 幼児・児童対象性教育図書の歴史と現状 日本保育学会第42回研究論文集 408-409
- 5) 竊崎要 1973『がま先生の性教育—幼稚園の部—』高橋書店
- 6) 北沢杏子 1973『白夜のエロスたち—われめちゃん北欧をゆく—』文藝春秋
- 7) 毛利子来 「幼い子のいる暮し—性」朝日新聞 1983、6、28
- 8) 毛利子来 「幼い子のいる暮し—死」朝日新聞 1983、7、5
- 9) 斗夢書房編集部 1987『生と性のライブラリー』斗夢書房（現、ばすてる書房）

- 10) 親子読書・地域文庫全国連絡会編 『子どもと読書』特集「性教育をどう考えるか」1984、7 No.155 岩崎書店
- 11) 親子読書・地域文庫全国連絡会編 『子どもと読書』特集「性教育をかんがえる その2」1985、7 No.167 岩崎書店
- 12) 全国学校図書館協議会編 『学校図書館』1989、8、466号
- 13) 日本性教育協会編 現代性教育研究 1972 季刊2号
- 14) 日本性教育協会編 「性教育関係 図書・雑誌・資料・視聴覚教材一覧」現代性教育研究 1975 季刊12号
- 15) 日本性教育協会編 現代性教育研究 1976 季刊16号
- 16) 日本性教育協会編 1980 『性教育指導要項解説書』小学館
- 17) 日本性教育協会編 1990 『性教育 新・指導要項解説書』小学館
- 18) 「お誕生会と性の指導」別冊『幼児と保育』1987、5 第118号 小学館
- 19) 朝日新聞 1985、2、8「子どもの性教育 本の手も借り率直に 正しい知識伝えよう」
- 20) 週刊朝日 1980、7、18「ミス、ミズ、ミセス、あらかると 子供とセックスの話ができますか 一対話に役立つ“性の本”を紹介すると」

＜注＞

- * 1 電話でのインタビューによる（1990年10月）。
- * 2 文部省選定、教育映画祭最優秀賞・文部大臣賞受賞
- * 3 『赤ちゃんはどこからくるの？』（中央公論社）を監修。
- * 4 本書に関わるマスコミ関係の資料は、アーニ出版の代表であり著者である北沢杏子氏の提供による。
- * 5 サンデー毎日（8/13）、週刊現代（8/10）、週刊朝日（8/11）、週刊明星（8/13）、週刊文春（8/14）、サンデー毎日（8/20）、平凡パンチ（8/21）
- * 6 「おほしさまのきれいなよる、ママはパパからのちのたねをもらったの」について。
- * 7 北沢氏への電話でのインタビューによる（1990年10月）。

付表 幼児・児童対象性教育図書一覧(1989年12月現在)

図書 番号	年	書 名	文／絵または写真 (翻訳)	出版社	対象年齢 ・学年
Y01	1955	★赤ちゃんはどこからくるの？	S. M. グルエンベルグ (村岡花子)	中央公論社	3～12
Y01'	1967	★ “	“ /五百住乙	あすなろ書房 ¹	3～12
Y02	1968	☆かこさとし かがくの本② かわいいあかちゃん	かこさとし／富永秀夫	童心社 ²	3、4～
Y03	1969	☆なぜ あかちゃんはうまれるの	アンドルー・C・アンドリー、ス ティーブン・シェップ／ブレイク ハンプトン (山田正弘・村松博雄)	タイム ライフ イ ンターナショナル ³	幼児
Y04	1971	★親と子の性教育① おかあさんはうちゅうせん	福世武次／山中正光	講学館 ⁴	4～9
Y05		☆幼児のための性教育絵本シリーズ ①おかあさん ありがとう —あかちゃんはどうしてうまれ るの—	日本性教育研究会・藤井悦雄／ア トリエ創	文進堂 ⁵	幼児
Y06		☆②ぼくは おとこのこ —おとこのことおんなのこの ちがい—	“	“ 5-2	“
Y07		☆③わたしは おんなのこ —おんなのことおとこのこの ちがい—	“	“ 5-3	“
Y08		☆④こどもとおとな —どんなところがちがうでしょ う—	“	“ 5-4	“
Y09		☆⑤どうしてなの なぜなの —おかあさんにきいてみましょ う—	“	“ 5-3	“
Y10	1972	☆なぜなの ママ？	北沢杏子／やなせたかし	アーニ出版 ⁶	3～
S01		●おとなになるって	井上明子	立風書房 ⁷	小学生
S02	1974	○ぼくどこからきたの？	ピーター・メイル／アーサー・ロ ビンズ (谷川俊太郎)	河出書房新社 ⁸	小、中
S03	1975	◎科学まんが1 男と女 はじめはじめ物語	本田皖／内山安二	ユニコン出版 ⁹	小～
Y11	1976	☆かこさとし からだの本 あなたのおへそ	かこさとし／かこさとし	童心社 ²⁻²	5、6～
S04	1977	○知識の絵本③ ひとのからだ	毛利子来／帆足次郎	岩崎書店 ¹⁰	小低～
S05		●ほんとのこと教えて	武川行男	成甲書房 ¹¹	小1～6
S06		●思春期へのメッセージ 愛と性について(ポプラブックス)	平井信義	ポプラ社 ¹²	小高～中
S07	1978	○ふしぎふしぎ人のからだ	井尻正二／伊藤章夫	築地書館 ¹³	小高～中
S08		●たのしい性教育・小学生用テキスト I 男の子、女の子—あかちゃん はどこから II りっぱな成長—第二次性徴と初 潮 III 生命誕生の神秘—第二次性徴と 受精のしくみ	佐橋憲治	一光社 ¹⁴	小1～3 小4、5 小6
Y12		☆どうしてなの？ ママ	ステン・ヘグラール (高橋和夫)	インタナル出版 ¹⁵	3～12
Y13		☆あかちゃんがうまれる	A. ロザン スチュール/A. ロザン スチュール (庄司洋子)	草土文化 ¹⁶	4～
Y14	1980	☆よいこの幼児全集16 (家族) あかちゃんのおへそ	依田明・永野重史／角田昭子	文英堂 ¹⁷	2、3～6
Y15		☆母 (教師) と子どもの教育絵本 とおきのおはなし①性教育 いのちのはじまり	佐賀そおた／三宅かおる	斗夢書房 ¹⁸	幼児～

S09	1981	●ママのおなかのなかで	S. キャベニー (大熊由紀子)	三笠書房 ¹⁹	小高～*1
Y16		☆赤ちゃん パンザイ	遠藤幸子／中村正俊	盛書房 ²⁰	就学前後～
S10		○ママだけのティッシュってなあに —おんなのこのほん	入江幸子／奥田怜子	第一法規出版 ²¹	小
S11		●ビ・リ・オ・ド 女の子のからだと月経	J. G.-ルラン、B. ロベス／M. コッ ケンブッシュ (三輪妙子／川島淳 子)	実業之日本社 ²²	9～
S12		●親と子の性教育② おかさんは宇宙船—第二の誕生	福世武次／加藤新	講学館 ⁴⁻²	小4～高
S13	1982	○ぼくのもババみたいになるのかな —おとこのこのほん	入江幸子／原ゆたか	第一法規出版 ²¹⁻²	小
Y17		☆だれもおしえなかったえほんシ リーズ あかちゃんはこうしてできる	P. H. クヌートセン／P. H. クヌー トセン (北沢杏子)	アーニ出版 ⁶⁻²	3～
S14		○こんにちは しょうちゃん	北沢杏子／津田櫓冬	アーニ出版 ⁶⁻³	小中～小高
S15		●おとなへのパスポート —からだところの変化101	島崎道子／小山賢一・立花千栄子	斗夢書房 ¹⁸⁻²	小高～中
S16		●秋田書店のビパレディー百科⑨ 愛の相談室	山中秀男	秋田書店 ²³	小高～中
Y18		☆ポッチリちゃん	ハンナ・マンゴールド (高橋洋子)	リプロポート ²⁴	幼児～*2
S17		○赤ちゃんのはなし	マリー・ホール・エッツ／ (坪井郁美)	福音館書店 ²⁵	小低～
Y19		☆かがくのほん こいぬがうまれるよ	J. コール／J. ウェクスラー (つばいいくみ)	福音館書店 ²⁵⁻²	4～小低
Y20		☆わたしのデジジーがあかちゃんを うんだの	サンディ・ラビノビッツ／ (箕浦万里子)	偕成社 ²⁶	5、6～
Y21	1983	☆たまごからうまれたあかちゃん	長谷川一光／ 〃	偕成社 ²⁶⁻²	5～
S18		●心とからだ—小学生のための性の 本	間宮武・松本清一・田能村優麒 小野清二・小林丈彦・武川行男 垣内愛子・小林英子・福原保子	学校図書 ²⁷	小
S19		●十代の性を考える② 性長期 一つっぱりおばさんから あなたたちへのメッセージ	鈴木みち子	あいわ出版 ²⁸	小高～一般
S20		○だれもおしえなかったえほんシ リーズ ババとママがりこんしたとき	M. ギーダール、T. ダニエルソ ン／M. アンダーソン (北沢杏子・たかはしたかこ)	アーニ出版 ⁶⁻⁴	小中～小高
S21		○なにがはじまるの？	P. メイル／A. ロビンス(谷川俊太 郎・たけむらみちこ)	河出書房新社 ⁸⁻²	小高～中
S22		●わたしたちのからだ9 誕生と成長	B. R. ワード (横森周信)	偕成社 ²⁶⁻³	小高～中
S23		◎まんが性教育 からだと心の成長	福原保子・斉藤浩美／島田耕志	実業之日本社 ²²⁻²	小5、6
Y22	1984	☆ぼくのいもうとがうまれた	北沢杏子／高岩震・北沢杏子 南出典子・長谷川瑞吉	アーニ出版 ⁶⁻⁵	3～
S24		○すばらしいわたしたちのからだ	F. ローゼンステール／ (長田弓子・別府ちづこ)	偕成社 ²⁶⁻⁴	小中～中
S25		○赤ちゃんパンザイ 第3集 生れる	近藤幸子／早川和子	ブレーションセンター ²⁹	小低～
Y23		☆ぼくとババはわかれている	A. ロザンステール／ (庄司洋子)	草土文化 ¹⁶⁻²	4～
S26		●おとなへのライセンス いま船出する君へ —おとうさんのアドバイス	佐賀そおた・菅本一三／三宅かお る	斗夢書房 ¹⁸⁻³	小高～
S27		●女の子と男の子の本 ①わたしとぼく—自分ってなんだ ろう—生命のはじまり	小形桜子・三井富美代・江崎泰子／ おかべりか	ポプラ社 ¹²⁻²	小・中
S28		●②ふしぎ！ 女の子のからだここ ころ	〃	〃 12-3	〃
S29		●③ふしぎ！ 男の子のからだここ ころ	〃	〃 12-4	〃
S30		●④愛すること生きること	〃	〃 12-5	〃

		一性ってなんだろう			
S31		●⑤こころとからだ 知りたいこと事典	〃	〃 12-6	〃
S32		●人間と人間たち	V. ニスカネン/A. タウリアラ (橋本紀子・高橋静男)	群羊社 ³⁰	小高
S33	1985	○性のQ&Aシリーズ いのちのふしぎ	佐賀そおた/立花千栄子	斗夢書房 ¹⁸⁻⁴	小低～小中
S34		○性のQ&Aシリーズ ふれあういのち	佐賀そおた/岩崎みよこ	斗夢書房 ¹⁸⁻⁵	小中
Y24		こころ からだ いのちの絵本シ リーズ			
Y25		☆①おかあさん	北沢杏子/今井弓子	岩崎書店 ¹⁰⁻²	幼～小低
S35		☆②おとうさん	北沢杏子/井上正治	岩崎書店 ¹⁰⁻³	幼～小低
S36		○③あいしあう動物たち	北沢杏子/津田櫓冬	岩崎書店 ¹⁰⁻⁴	小低～小中
S37		○④あかちゃんはどこからきたの	北沢杏子/井上正治	岩崎書店 ¹⁰⁻⁵	小低～小中
S38		○⑤女の子	北沢杏子/今井弓子	岩崎書店 ¹⁰⁻⁶	小中～小高
S39		○⑥男の子	北沢杏子/井上正治	岩崎書店 ¹⁰⁻⁷	小高
S40		○⑦あなたがうまれるまで	北沢杏子/津田櫓冬	岩崎書店 ¹⁰⁻⁸	小高
S41		○⑧生きること愛すること ハートブックス	北沢杏子/井上正治	岩崎書店 ¹⁰⁻⁹	小高
S42		●1 おへそのひみつ	武川行男/小泉るみこ	草土文化 ¹⁶⁻³	小2～
S43		●2 からだのひみつ	〃	草土文化 ¹⁶⁻⁴	小4～
S44		●3 こころのひみつ	〃	草土文化 ¹⁶⁻⁵	小4～
S45	1986	●すばらしい誕生の物語	リヨネル・ジャンドロ/J. トレン ブレイ (中島公子・中島さおり)	女子パウロ会 ³¹	7～15
Y26		○赤ちゃんー赤ちゃんはどうしてう まれるの?	マリアンヌ、リーズ/ 〃 *3 (石川慶子)	あかね書房 ³²	小
S46		☆ロッタとあかちゃんスウェーデ ン・幼児からの性教育	M. ベリストレーム/I. ヴィークラ ンド＝ヴァーラン	香匠庵 ³³	幼児～
S47		○社会とくらしの絵本② ぼくってだれ	依田省吾・逸夫/高田勲夫	岩崎書店 ¹⁰⁻¹⁰	小低～小中
S48	1987	○シリーズ生活を学ぶ⑥ わたしたちのからだ	緒方直助・大井清吉 /吉田美穂	福村出版 ³⁴	小・中
S49		○社会とくらしの絵本⑨ 男と女	福井和夫/常葉雅人	岩崎書店 ¹⁰⁻¹¹	小低～小中
S50		◎まんがが性教育 たいせつなからだ	福原和子・斉藤浩美/島田耕志	実業之日本社 ²²⁻³	小1、2
S51		◎まんがが性教育 わたしたちのたんじょう	〃	実業之日本社 ²³⁻⁴	小3、4
S52		◎初潮のほん おんなのこ物語	佐藤滋子・堀口雅子/岡本ゆり	小学館 ³⁵	10～12
S53		●もうすぐですね 初潮のほん	佐藤滋子・堀口雅子/田屋英子	自由企画・出版 ³⁶	小5、6
S54		○みんなのからだ	G. ビバース/S. ブーリー (中山知子・小林登)	西村書店 ³⁷	小高
Y10'	1988	●性・おとなになるあなたへ 思春期の悩みハンドブック	黒川義和・岩田渾一・藤本巖	日本学校保健研究 所 ³⁸	小高～16
Y27		☆3歳からの性教育絵本 なぜなの ママ? (改訂版)	北沢杏子/やなせたかし	アーニ出版 ⁶⁻⁶	3～
Y28		☆3歳からの性教育絵本 なぜなの パパ?	北沢杏子/やなせたかし	アーニ出版 ⁶⁻⁷	3～
S55		☆ようちえんからしょうがっこうて いがくねんまでの性教育絵本 どうしてなの パパ おしえてよ ママ	入江幸子/津田直美	池田書店 ³⁹	幼稚園～小 低
Y02'		○おまかせ性の110番 答えてよ ボクの悩み ワタシの疑問	入江幸子/肥沼裕子	池田書店 ³⁹⁻²	小中～中
S56		☆かこさとし かがくのほん2 かわいいあかちゃん (改訂版)	かこさとし/富永秀夫	童心社	3、4～
Y29		◎まんが からだ事典 子どもから大人へ	奥田拓道/楠高治・わちさんべい	学習研究社 ⁴⁰	小～中
		☆かこさとしの からだとこころの えほん5	かこさとし/かこさとし	農文協 ⁴¹	幼～小中

S57	1989	おとうさんのおっぱい なぜあるの	山口令司／鈴木幸枝	ポプラ社 ¹²⁻⁷	小低
Y30		○生活科のえほん 12 わたしのものがたり ☆「お母さん流性教育を始めるため の絵本」 あっ！ あかちゃんがうごいた	佐賀そおた／立花千栄子	ばすてる書房 ¹⁸⁻⁶ (旧 斗夢書房)	5、6

Y 幼児対象図書…絵本☆ 読み物★

S 児童対象図書…絵本○ 読み物● まんが◎

対象年齢・学年………小～小学生 小低、小中、小高～小学校低学年、中学年、高学年
中～中学生 高～高校生

* 1 出版社への問い合わせでは、「若い女性対象」との返事。筆者が「訳者あとがき」より判断。

* 2 出版社への問い合わせでは、「小低・中」との返事。筆者の判断による。

* 3 フレネ学校の8才の子どもたち。